

編 輯 局 よ り

二月號を茲に送る▲フィッシャー博士の極光を語る文は御約束の通り、極光といふものは、日本でも、滿洲でも、北支でも見えるのであるし、歴史によれば、京都で1000年間に30回ばかり“赤氣”として見た記録もあるのであるから、始めから諦めずに、大に見て頂きたい。勿論、何時見えるか、分らない。豫定も豫想も、すべからず。只、常に注意を怠らないこと▲高松博士の文は、實は近頃大阪で行はれた講演の要項である。必ず参考になる貴い文です。▲S.I.氏の古代日本暦は本號を以つて終る。約一ケ年續いた文ですが、之れは仲々熱心に讀んでゐる人もあるし、又、實に示唆に富んだ文ですから、必ず一般讀者の研究を促すことと思ひます。▲ピケリング博士のアツサリした、しかし興味深き星座論を味はれたい。▲カニンガム彗星が愈々近づきつゝあります。いよいよ之れが大彗星となるか、又は、スゲなく去つて了ふか？ 之れは誰も豫言することの許されない現象です。要は、只、實物を見て、楽しんで下さい。或は、失望して下さい。之れについては、數ヶ月來の急報を注意深く讀むこと。それから、勿論、主筆の卷頭文を讀むことです。又、表紙第2頁に入れた星圖は、この彗星の經路と、太陽の經路とを、合はせ書いたもので、編輯部苦心の作です。此の圖を手引とし、實際の天と見比べて、日々の彗星を追跡して下さい。此の一枚の星圖を入れるため、水星の寫眞や、正村觀測所の寫眞など、皆、急に豫定を變更して、次號にまはしたのです。年末以前に此の雑誌が配布されるやう、努力してゐますので、この星圖は必ず御役に立つと信じます。南半球の讀者にも本誌が間に合ふやう届くと宜いのですが、之れは御氣の毒ながら駄目でせう。“もつと早く此の星圖を出せば宜かつたのに”と言はれる方もあるかも知れないが、そうは問屋で卸しませぬ。此の星圖を作るための Möller 博士の彗星軌道要素が十一月末日に手に入つたのですから、有難いことです。我が國は目下歐洲戰に對しては中立國ですから、ドイツ、デンマルク、オランダ、ベルギ等の諸國からも、又、英米佛諸國からも必要な學術的資料は都合よく入つて來てゐます。▲序でに：さきにスライフ博士の火星寫眞が意外に要求されたので、今回事務局では、珍らしい天文寫眞の複寫をドシドシ出す事にしました。23cm×30cm(7寸5分×1尺)の所謂“四つ切り”版です。京都の K 寫眞師の作製した美術品で、額ぶちに入れ、書齋や客間に掲げてよい品です。詳しくは本號第54頁の記事を見て下さい。▲近く、山本氏と古川氏と協作の星圖を作製、會員に配布する豫定もあります。